

随想



緑と水

真藤 長生

仕事から毎日のように関東、関西からのお客と会っている。中には初めて、あるいは久しぶりに熊本入りした人もいる。この人たちが異口同音に言うのは「熊本の緑の豊かさ、あざやかさ」だ。私は「なるほど、そうですか」など不得要領な返事をしながら、内心「そりゃそうだよ、羽田や伊丹から飛んできて、緑がいっぱいの熊本空港に降りたら、身も心もせいせいするのが当たり前。鉄とセメントに囲まれて毎日を過ごしているあなた方は窒息するごたる気色でツッパうな」とつぶやき、ニタリと笑いたくするのを押える。

そういえば、私どもがお世話して新聞社関係の会議を熊本で開いた。会議が終わって阿蘇へ一行を案内したら、東京からやってきた人が、「都心の繁華街から一時間とちよつとでこんな大自然に浸れるなんて」と感嘆した。まんざらお世辞でもないように思われた。

熊本は水がまたよろしい。パラパラと主婦向けの雑誌をめぐっていたら「初夏―そうめんの特集―」が載っていた。そうめんを食べ方もこんなにあるのかと生来食い意地のはっている私だから、読み進むと、「ゆでたら五回冷水で洗います。けれども水道の水の臭いで味をそこないますから、最後はミネラルウォーターを使いましょう」とあった。私はカンラカンラと笑った。熊本の水なら、そんな心配はご無用である。

いつか、社の若手数人と止まり木に腰かけて、水割りを飲んでみた。カウンタ―にミネラルの瓶が並んでいる。チーフに「この瓶の中味は本物かい」ときいたら「いやあ、熊本の水ならミネラルはいらんですよ。水道の水ですたい」と答えた。それでいいのです。ただし、皆さんがおいでになるスタンドは高級な店だから、本物のミネラルを使っていることを請け合う。念のため。

ことほどさように、熊本は緑と水、そして光に恵まれている。もっと私たちは天与の恩恵に感謝しなくてはいけない。次に人。九州は日本のシリコンバレー

と称され、特に熊本はICの重要な生産地となっている。その理由は、きれいな空気、水、そして良質な労働力である。城屋百貨店の野崎社長(天草の出身)は城屋創立のためオリエント中村から請われて熊本へ数十年前に帰った人だが「従業員にこんな優秀な人が集められるとは」とベタ褒めしている。自然の恵みと同じく、人の良さも、熊本に生まれ育った私たちにはわからないが、よそで人扱いを経験した人々には、よくわかるのであろう。

ただ、よかばいよかばいと、手ほめして、自ら安んじては進歩はない。美しい豊かな自然を守りぬく努力と同時に、より豊かな暮らしを築き上げることが大切である。素直で、よく働く労働力も結構だが、どうすればより効率的に仕事ができ、より発展できるか、知恵を絞ることが大事なのである。頭をフル回転させた

(熊本日日新聞社取締役)

テクノポリスの森

杉谷 公美枝

テレビのニュースでテクノポリスとかの指定地域に熊本県が入った事を知り、

物との空間の広々した芝生、森の木立、花は美しく咲きみだれ、子供達は楽しく遊び場でたわむれているのをすき通る様な陽光の中で印象深く今でもはっきり覚えていた。

(主婦)

ことばあれこれ

八木 孝

「おはようございます。」

学校生活は、子どもたちの元気なあいさつから始まる。あるいは神秘的な顔で、あるいは明るい顔で、皆それぞれに元気な声であいさつをしてくれる。子どもたちの素直な気持ち、明るい声となって快く響いてくる。「やあ、おはよう。」とあいさつを返しながら、「よし、今日もこの子たちのためにがんばろう。」という気持ちがおのずからわき上がってくる。「おはようございます。」ということは、子どもたちの心と私の心をつなぐ大切な信号となっているのである。

このように、ことばはお互いの心をつなぐ大切な信号なのであるが、最近、おとなの社会では、その用法にかなりの乱れが見聞きされる。以下、気づくまゝに列挙してみると、

1. Aさんが申されたことに、私も全く

同感でありまして……。

2. 当日は、町長が直接お話しになられるそうです。

3. こちらは、何時ごろ参られますか。

4. 太郎君、犬にえさをあげなさい。

5. この本は、うちの子にも買ってあげたいと思います。

6. それは、案内所ですかが、つてくださ

い。

7. 番組の一部が変更することがあるかもしれない

かもしれません。

8. どうか、あなたより適当な方をご紹介

ください。

9. 全然おもしろい映画だったわよ。

10. 夜景がすごいきれいで感動しました。

このほか、数え上げればきりがなさそうであるが、お互いに少しでも誤用を少なくするよう努めたいものである。また、誤用ではないが、最近、苦々しく思っていることが二、三ある。

その一つは、テレビ・コマシヤルにおける外国語の氾濫である。すでに定着している外来語ならともかく、辞書を引かないとわからないような外国語をむやみやたらに使っているのは、どう考えても頂けない。

次に、虫ずが走る思いをさせられるのが、「赤信号みんなで渡れば怖くない」とか、「カラスなぞ鳴くの、カラスの勝手でしょ。」とかいった、いわゆる人気が

新聞に沢田知事が当局にお礼の言葉を言われたという記事が小さく載っていた。

テクノポリスとは何だろう、友達や知り合いと話しする時雑談の中で聞いてみようと思掛けた。男の方、女の方に限らず、はつきり言って下さる方はほとんどない。その中で三人の方から言われたのに、Aさん(女)「今、神戸で博覧会やっているでしょうあんなものじゃないですか」Bさん(男)「水俣湾を多額の金を出してヘドロを埋立て、団地を作り公害のない工場を持って来ることではないですか」Cさん(男)「こんな世の中ですらから高度の技術を備え優秀な警察官を訓練することじゃないですか、テクノとはテクノック即ち高度の技術ですよ」益々解らなくなり、やゝこしくなってきた。夕食後主人に話したら仲々面白いと笑っている。ともかく教えてもらおう。聞いているうちに内容の素晴らしさ、遠大な計画と、世界に負けない技術を持つ日本のすべての英智を集中させ、理想と現実を生かした、これが、これからの都市造りである。テクノポリスの構想等くわしい事等一介の主婦が書けるものではないが、私なりに解ったのは、人口五万の都市を、熊本の伝統と自然にとけませ、電子、コンピューター等の産業、医療、福祉産業、それに必要な研究機関、高校、短大、高専、大学の設立それらの機関に住む方々のためのショッピングセンター、レストラン、山や川、森を生か

レントがはやらせた流行語である。確かに、語呂もいし、パロディとしてのおもしろみもあるからこそはやるのではあるが、おとななら笑ってすませることも、思慮分別の定かでない子どもたちへの影響を考えると、黙っては見過ごせない問題のように思われてならない。

学生時代に「言葉の幸ふ国」というのを習ったことがある。当時は、「ことばに魂などあったまるものか。」とせせら笑っていたのだが、ことばの影響力を考えると、「言葉」を考えていた昔の人の方が、現代人よりもよほどしっかりしていたのではあるまいか、と思われてならない今日このごろである。

注1. 言われた。おっしゃった。

注2. お話しになる。

注3. おいでになりますか。来られますか。いらっしやいますか。

注4. やりなさい。

注5. 買ってやりたい。

注6. お尋ねになってください。

注7. 番組の一部を変更する。番組の一部が変更される。番組の一部が変更になる。

注8. あなたから。

注9. とても。

注10. すごく。

(熊本市立東町小学校長)